



もう知らないとは言わせない！パーティゲームの大定番と言える『大富豪』。しかし、地域ごとにルールが異なっていることが多く、いざ勝負を始めてみると、混乱を招くことも多々あります。今回はみなさんで楽しめるように様々なルールを紹介します。(ダディ)

大富豪とは

自分の手札をいかに早くなくすかを競うトランプゲームが『大富豪』です。しかし、誰もが知っているゲームにも関わらず、『大富豪』というゲームの歴史は思いのほか浅く、1970年代の東京で誕生したと言われています。つまり、数少ない国産のトランプゲームなのです。さらに、その認知度から『国産の傑作』とまで表現されています。なんと、長期連載漫画『こちら葛飾区亀有公園前派出所』でも大富豪の紹介がされたことがありました。そのとき読者から大量の地方ルールが寄せられたそうです。

? HOW TO PLAY 大富豪 ?

- 1: ジョーカーを含む、全54枚のカードを全ての参加者に均等に配布する。
- 2: 自分の前のプレーヤーが出したカードよりも強いカードを出していき、手札がなくなった順番で勝敗を決める。カードの強さは、3, 4 …… K, 1, 2の順で強くなっていく。ジョーカーはオールマイティであり、2に勝つことができる。
- 3: 同じ数字はペアとして出してよい。この時、次の人は2枚のペアなら必ず2枚のペアを、3枚のペアなら3枚のペアを出さなくてはならない。ペアの一部のカードをジョーカーで代用してもよい。
- 4: カードが出せない場合は何度でもパスをすることができる。
- 5: 最後にカードを出した人から数え、誰もカードを出さないまま手順が一巡すると場が流れる。その際、最後にカードを出した人が手札から任意のカードを出して、ゲームを再開する。
- 6: 同じカードを4枚（ジョーカーを含んでよい）以上出すと「革命」が起



こる。革命状態になるとカードの強さは2, 1, K …… 4, 3の順で強くなる。つまり、強さは逆転する。もう一度革命をすれば、強さは元に戻る。革命時もジョーカーはオールマイティとして使用することができるほか、3に勝つことができる。

- 7: 手札がなくなればあがりとなる。手札を早くなくした人から順に、大富豪、富豪、平民、貧民、大貧民の称号が与えられる。続けて次ゲームを始める場合、大貧民は大富豪に2枚、貧民は富豪に1枚の最も強いカードを献上しなくてはならない。大富豪と富豪は献上の見返りとして自身にとって不要なカードを、献上された枚数分だけ大貧民・貧民に譲渡する。

単純明快なルールながら、自分の成績が次の勝負のときの有利・不利に直接影響していく点で、『大富豪』は他のトランプゲームにない魅力と戦略性を有しています。しかし、このルールでは最初に勝利した者だけが有利のままではないか、という意見もあるでしょう。ここまでに紹介したのは、あくまでも『大富豪』というゲームの基本ルールに過ぎません。

では、ここからはゲーム性を増し、誰にでも勝利のチャンスが訪れる派生ルールを紹介していきましょう。

はみだし
すてーじ

草むら歩きをしたら棒で刺されました。
⇒飛び出てきたのが棒でよかったですね。

(経・1 インゲン)
(僕は飛び出てきたスクーターに轢かれました；編)

派生ルール

◆禁止カード

ジョーカーと2（革命時は3）をあたり札とすることは禁止。階段（後述）に含んであがる事も禁止。

◆スペ3

ジョーカーが単体で出されたときは、スペードの3で勝つことができる。

◆8切り（8流し）

8を出す和无条件で場が流れる。なお、「8切り」採用時は、8も禁止カードになる。

◆階段・シークエンス

同じスート（マーク）の連続する3枚以上のカードは「階段」として出すことができる。ただし、2と3を繋げる事はできない。また、4枚以上の階段の場合、「階段革命」を起こすことができる。

◆イレブンバック

Jを出すと同場が流れるまでカードの強さが逆転する。階段含みでも効果が発動する。革命時は逆に「イレブンアップ」となる。

◆縛り

同じスートのカードが連続して出され

た場合「縛り」状態になり、そのスート以外は出すことができなくなる。また、連続した数字が出された場合、「階段縛り」として続く数字しか出せなくなる。これらはペア出しの時にも適用される。

◆都落ち・下克上

大富豪以外の方が1位であがった場合、大富豪は強制的にゲーム終了となり、次回は無条件で大貧民になる。他のメンバーはゲームを続行する。これを「都落ち」と呼ぶ。

大貧民が1位であがった場合、強制的にゲーム終了となって、全員の階級が逆転する。これを「下克上」と呼ぶ。

ここに挙げてみたのは、派生ルールの中でも比較的メジャーな部類と言えます。みなさんにとっても、目新しいルールはそこまで多くないと思われます。しかし、世間にはまだまだ私たちの想像を遥かに超えたトンデモルールが存在しているのです。ここではその一部を紹介していきたいと思います。さあ、みなさんの知っているルールはいくつありますか？

トンデモルール

◆7渡し

7を出した場合、出した枚数以下の任意のカードを左隣の人に渡すことができる。

◆10捨て

10を出した場合、出した枚数以下の任意のカードを手札から捨てることができる。

◆エンペラー

4つの違うスートで連続する階段を出せば革命を起こすことができる。

◆Qバーン

Qを出す、次プレイヤーの順番を飛ばすことができる。

◆キング・オブ・ハート

ハートのKを出す（階段含みでも可）無条件に場が流れる。

◆インフレーション

前回から全く順位変動がなかった場合、交換するカードが1枚ずつ増えていく。

◆終末

6を3枚出せば、それまでの捨て札を全プレイヤーに均等に配ることができる。

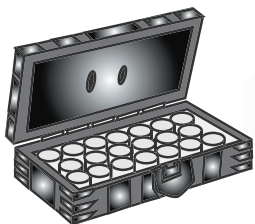
◆5ピック

5を出した枚数と同じ人数の手札を覗くことができる。

◆クーデター・砂嵐

9を3枚出しすると革命になる。これを「クーデター」と呼ぶ。

3を3枚出しすると場が流れる。これを「砂嵐」と呼ぶ。



みなさんの知らないルールが多かったのではないのでしょうか。今回、紹介しきれなかったルールもあるため、「どうしてこのルールがないんだ！」と思われる方もいるかと思いますが、しかし、上記のルールを組み合わせるだけでも『大富豪』の面白みは無限大に広がっていきます。是非これまで体験したことのないルールも使用し、『大富豪』の新たな面白みを発見してくださいね。

はみだし
すてーじ

神の声が聞こえる。
⇒冒険の書にも記録をしておきましょう。

(工・2 ROCKING)
(次のレベルまであと700の経験値が必要です；編)